

会報

第 6 号

発行者

九州八十八ヶ所百八霊場会

事務局

〒812-0037

福岡市博多区御供所町 2-4

東長寺中

電話 092-291-4459

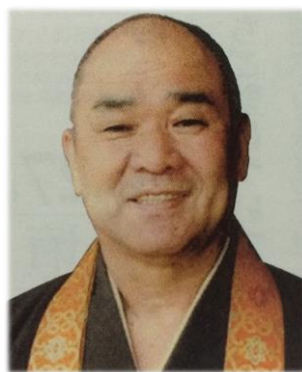
FAX 092-291-4504

【ホームページ】

<http://www.kyushu88.com>

【フェイスブック】

<https://www.facebook.com/kyusyu108>



開創三十周年 記念事業に絶大なるご協力を

九州八十八ヶ所百八霊場会 会長 原口元秀

今年は九州八十八ヶ所百八霊場会の開創三十周年という記念すべき年を迎えました。

霊場も今年で三十歳です。

よく年齢に路をつけて三十路（みそじ）と呼びますが人生は遍路、常に修行ということでしょうか。では、その修行とは一体何をすれば良いのでしょうか。

私たちは、人生の中で、生老病死を経験していきますが、このことに不満を抱き、嘆くのではなく、生かされていることに感謝し、人の役に立ち、

喜んでもらうことこそが、私たちの人生における大切な修行なのです。

三十周年を機に、多くの人が霊場を訪れ、それぞれの札所を巡ってお大師様の御心にくれて頂くとともに住職さん方とのふれあいを通して、心から喜んで、気持よく帰ってもらえることを願って止みません。記念行事としては5月23日に宗像市の第88番札所鎮国寺において、「祈りゝいま、一途にゝ」のテーマのもと、土砂加持先祖供養、お砂

踏み法要が午前午後の二座にわたって厳修されます。

また、10月13日～15日の予定にて高野山参拝も企画されておりま。またとない勝縁にご家族ご友人お誘い合わせの上、ご参詣いただきますようお願い申し上げます。

合掌



開創二十五周年 プレイバック



開創二十周年 プレイバック

遺品や関係資料が展示してあります。この国の恒久の平和を祈念するための場所でもあります。今回担当した鹿児島支局発案にて巡拝講習会にご参加頂いた僧正様、巡拝者一同様により、この地で平和の祈りを捧げたいと考えたのです

集合写真撮影の後「特攻平和観音堂」へ進みます。導師の当会会長 原口元秀僧正入堂を合図に法会の開式です。いつまでも忘れては成らない大切な思い「世界平和の祈り」を心の法灯として胸に灯しまし清々しい思いを抱き、特攻平和会館を後にしました。49番札所剣山寺をお参りして、二日目の宿泊地鹿児島市内へ夕刻からは皆さんでの懇親のひととき。美味しい薩摩料理に舌鼓をうちました。

三日目は八時半出発です。第46番札所峰浄寺参拝そして本年度の打ち納めとなります48番札所さつま薬師寺へ。お参りをすませ、閉講式です。巡拝のご加護と、鹿児島支局

霊場の本尊様とのご縁。楽しかったたくさんさんの思い出と共に無事終了となりました。ご参加頂いた皆さんの笑顔がとても印象的な平成二十六年度巡拝講習会でした。

◇お砂踏み出開帳

さる平成26年12月7日(日)九州八十八ヶ所百八霊場の大部分二十四番札所、蓮華寺にて「九州八十八ヶ所百八霊場のお砂踏み出開帳」が執り行われました。



心静かに、お砂踏みをする参拝者の様子

今回の出開帳は大部分の札所寺院の行事として行われ、当日は19番普門院、21番神護寺、22番大楽寺、25番金剛頂寺、

26番福寿院、28番興山寺、30番大日寺、95番明王寺の各寺院の住職、副住職が集まり運営にあたりました

また、このお砂踏み出開帳にあわせて、来年、開創一二〇〇を迎える高野山の行事である「飛行三鈷」の法要が執り行われました。「飛行三鈷」とは、高野山真言宗の行事で、

弘法大師が一二〇〇年前に高野山を開くにあたり、唐は明州の浜より投げた三鈷杵を探し求める中で高野山に辿り着いたという物語から、来年の開創一二〇〇年をひかえて、今年一年をかけて日本全国の高野山真言宗の寺院に「大きな撫で三鈷杵」を巡らす行事であります。今回参拝された皆様は、九州八十八ヶ所百八霊場のお砂踏みのお参りをされた後、全国行脚中の「大きな撫で三鈷杵」にもお参りして頂きました。当日はその他にも青年僧による5分間法話なども行われ、お参りされた三〇〇名を超える皆様は「大変良いご縁をいただいてとて

も有り難かったです。」とお言葉を頂きました。



飛行三鈷に手を合わせる参拝者の様子

編集後記

今号は、霊場会開創三十周年記念法要を控え霊場会の更なる発展を願い編集しました。

(担当 広報IT委員)

福岡 金剛頂寺 羽坂孔全
大分 明王寺 吉水亮善
佐賀 誕生院 山口光玄
長崎 西光寺 前田大輔
宮崎 弘泉寺 成松昇紀
熊本 本蔵院 蔵本崇正
鹿児島 光明寺 川上昇観
※ご要望等は、各支部の広報IT委員にご連絡下さい。

二十六年度事業報告

◇先達講習会◇

平成二十六年九月十日（水）
午後三時より当霊場会第 84 番札所法蔵院に於きまして平成二十六年度九州八十八ヶ所百八霊場第十七回先達研修会が開催されました。参加者は公認先達九名。一般先達七名。初参加一名。第一観光より吉田氏の計十八名でした。

研修内容に就いて、公認先達の奈須隆文師により開会の辞・御法楽の後、渡辺光昭先達委員長より挨拶と当講習会の講師として当霊場会第 32 番札所光明寺谷山光信師の紹介がされました。谷山僧正からは、初代先達委員長に就任してより十数年間の先達委員会の歩みに就いて年代を追って今迄の研修会の内容や巡拝講習会の事、先達の心得等に就いての話がなされました。休憩後、渡辺先達委員長より「先達の仕方」について委員長自身の体験を基に、具体的

な説明が行われ、特に考慮すべき注意点を話をなされました。続いて公認先達の松山僧正より「経頭の取り方」に就いての指導があり全員でお唱えがなされました。

最後に、堤理事長より総括として、『当霊場会に数社の旅行会社が参入を希望しており、更に参拝者も増え、益々先達の役割が大きくなってくる。』と、先達の役割の重要性が増してきたという話と、併せて『長期に亘り霊場会の為に貢献してくれた先達さんには現在の先達の記事とは別に特別な記事を授与しては』との提案がありました。

質疑応答では『谷山前委員長のご苦勞を知って頑張らねばと思つた』と抱負と、『次回の研修会は、御詠歌の講習も是非して欲しい』との要望があり、また、先達として活動している一般先達からは『他の霊場と違って各お寺さんが真心のこもった対応をしてくれて大変喜んでいます。』との報告がありました。また『ロウ

ソクが時々床に落ちているので先達さんの方から皆さんにお願いして欲しい』との寺院からの参加者からの意見もありました。総じて充実した研修会が行われ、今後の先達という役割の重要性和抱負を共有し、御法楽・閉会の辞を以て研修会は終了しました。

◇巡拝講習会◇

平成二十六年年度の巡拝講習会が、鹿児島にて開催されました。十月十四日（火）午後十二時二十分より 43 番札所法蔵院にて開講式があり巡拝参加者全員の元氣な読経の後、前会長の野崎俊賢僧正より歓迎の挨拶をいただきました。遠路からのご参加も多いのですが皆さん疲れた様子などなく笑顔が溢れるなかバスはいよいよスタートです。鹿児島市内の 45 番札所大歓寺、44 番不動寺をお参りして宿泊地の指宿市へ。長距離の移動ですが美しい桜島を望む湾岸道路からの車窓風景のおかげで飽きる事などありません。

楽しみの温泉で疲れを癒し初日終了です。



落慶した本堂にてお勤めをする参加者の様子

二日目は 47 番札所光明寺より札打初めです。落慶したばかりの美しい本堂にてお勤めさせていただきます。祈りのこもった読経の音がきれいな青空に気持ちよく吸い込まれていくようです。バスは正面に薩摩富士と称される開聞岳を仰ぎながら 97 番札所大國寺へと向かいます。お参りの後、本年度巡拝講習会へ参加頂いた皆さんに、もつともご期待の言葉を頂戴した知覧特攻平和会館へ向かいます。こは第二次世界大戦末期に特攻基地があつた所で、隊員の



九州八十八ヶ所百八霊場開創三十周年記念

高野山開創一千二百年記念事業に向けて

実行委員長 法蔵院 堤大恵

九州八十八ヶ所百八霊場は、昭和五十九年の宗祖弘法大師御入定一千五百年の勝縁の年に九州でも大師のご偉徳にふれていただきたいの思いの中、創設当時の各僧正が東奔西走のご尽力により九州一円に広がり開創されました。そして、平成二十二年には九州八十八ヶ所百八霊場として新しい時代を迎え、五年ごとの周年記念では百八の寺院として初めての事業です。また、高野山開創一千二百年の年にこの事業が出来ます事も喜びと感謝の念で胸一杯です。

自身壇信徒と三年前より百八霊場を巡拝して本年三月に三回目の成満をします。今回は第一回目、二回目よりはるかに参拝お遍路される方と出会います。お会いする方々に良い霊場、心癒されますの言葉を頂き、逆に有り難い思いで心一杯になります。私が思うこの霊場はキラキラ光る寺院の集まりです。その個性をそれぞれ発揮しながら、ひとつの和の世界を展開していく、まさに曼荼羅の世界それをめざして九州八十八ヶ所百八霊場が発展すること、三十周年記念事業が成就することを祈念する次第です。どうぞ、ご理解、ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

南無大師遍照金剛

合掌

平成二十七年五月二十三日（土）
 土砂加持法要・ご法話
 お砂踏み出開帳 午前九時半～午後四時半
 会場 八十八番札所 鎮国寺
 お問い合わせ 各寺院様にお尋ねください。

祈り、いま、一途に、

どしゃかじせんぞくよう

**先祖供養
土砂加持**

並びにご法話・お砂踏み出開帳

九州八十八ヶ所百八霊場の僧侶が一堂に会し祈りを捧げる

三十周年記念大法要